

I 前節とのつながり→「ですから、愚かにならないで、主のみこころは何であるかを、よく悟りなさい」：17。

その「愚かになるな」という注意の特殊な具体例が→「酒に酔ってはいけません」：18。

18節の文頭の「また」という接続詞は、「特にその中で」という用法。

II 「酒に酔ってはいけません」。

この世を歩む時、皆、人生の悲しみ、苦しみに会う。その時、酒に酔って、それらを忘れ、逃避したくなる。しかし、そこには真の解決、真の救いはない。かえって、「そこには放蕩ほうとうがあるからです」。私達の避け所は、酒ではなく、主ご自身！

① 「放蕩」：原語の意＝放蕩の生活、不身持ふみもち（身持ち＝品行、普段の行いのおさまらない事）、テトス1：6では、「不品行」と訳されている。

酒に酔ってはいけない。そこには、放蕩、不品行があるからです。酒に酔う時、自制、セルフコントロールが失われ、不品行、みだらな行為に陥る。それも覚えていない。信用、仕事、家庭、自分の体、経済、人生を壊す。

※酒だけでなく、麻薬、覚せい剤等にも気を付けたい。神から与えられた体を大切にしたい。

※私自身、主を信じ、御霊に満たされていなかったら、ひどい人生を歩んでいたと思う。ただただ主に感謝している。主のことを多くの人にご紹介したい！

② 放蕩の原語は、「救う、生かす」と言う動詞の前に否定の「ア」が付いた形容詞からできた言葉。つまり、酒に酔ってはいけません。そこには「救いが無い」からです。かえって体も理性も蝕むしばまれる。中毒にさえなる。この副詞型がルカ 15:13 で用いられ「弟は…遠い国に旅立った。そして、そこで放蕩して湯水のように財産を使ってしまった」とある。

※私達も、神から離れた所に行く時、放蕩して（救いのない状態となり）、湯水のように、神から与えられた財産（体、心、思い、考える力、能力、時間、財）を罪、悪、欲望の為に使ってしまう。

それゆえに、賢い人のように歩んでいるか注意し、時を買い戻しなさい。愚かにならないで、主のみこころを悟りなさい。（：15－17）。

III 原語には、大切な「アッラ、むしろ」がある。※新しい訳の聖書に期待。

1. 人生の対比である。酒ではなく、「むしろ、御霊に満たされなさい」。

御霊なる神は、酒よりも何倍も素晴らしい助け主。むしろ聖く生き、感謝する事、真の知恵をもって歩む事、主のみこころを悟る事を助ける方！主を信じ、救われて生きる生き方は、消極的な人生ではない。主にある生き方は、神が与えられる新しい力をいただく人生！それを明確に表すのが、「むしろ」御霊に満たされなさい。

「酒に酔うな、酒に酔うな」だけの命令なら、窮屈なクリスチャンの人生となり、真の喜びがない。

しかし、「むしろ、御霊（すべての心の深い満たし、素晴らしい力を与える方）に満たされなさい」は、罪の力から解放される喜びの人生！

※文脈：結婚、親子関係、仕事等の人間関係の源の愛、力、識別力を御霊なる神は与えて下さる素晴らしい方！

2. 酒に酔う人生と御霊に満たされる恵みの対比、相違。

① 酒に酔う時、そこには放蕩（不品行、みだらな行為、自制を失くす、真の救いが無い）がある。

⇨素晴らしい御霊なる神に満たされる時、そこには、聖さ、自制（セルフコントロール。「御霊の実は、愛、喜び、平安、…自制」ガラテヤ5：22、23）、真の救い（神との命ある正しい関係、親

しい交わり)がある。

- ② 酒に酔う人は(罪、悪に酔う人生も)、神から与えられた(神が預けられた)体、能力、時間、経済を放蕩により浪費する。

⇒素晴らしい御霊なる神に満たされる人は、神から耐えられた体、能力、時間、経済を、御霊の与えて下さる判断、分別、知恵により、主の為に十分に生かして用いる人生に変えられる。

- ③ 酒に酔う事は、私達の機能を低下させる。現実逃避。

⇒素晴らしい御霊なる神は、私達の機能、意志、知性、判断力に聖なる力を与えてくださる。

- ④ 酒に酔う事は、真の愛、喜び、平安、心の満たしを与えない。酔いから冷める時、「どうして、あんな事をしてしまったか」と後悔する。

⇒素晴らしい御霊なる神は、真の愛、喜び、平安、心の満たしを与えて下さる

3. 「御霊に満たされなさい(原語:現在形の命令形。「満たされ続けなさい)」とは

＝酒の影響下ではなく、素晴らしい御霊なる神(愛と聖なる人格をお持ちの方)に満たされ続けなさい。酒に酔い、自分をコントロールできない人生ではなく、むしろ、御霊に満たされ、御霊に心を支配され、聖なる自制、セルフコントロールをいただく人生。

素晴らしい御霊なる神に満たされ(支配され)続けるには。

- ① 御霊によって絶えず主のもとに行く。

「だれでも渴いているなら、わたしのもとに来(原語:続けて。礼拝、祈り、御言葉の継続)て飲み(続け。継続)なさい。わたしを信じ(続け)る者は…その人の心の底から、生ける水の川が流れるようになる(これは御霊のこと。:39)」ヨハネ7:37, 38。

御霊を祈り求める。ルカ11:13。

- ② 御霊により、御霊なる神が働かれて完成した聖書の御言葉を読み味わい、心と教会の交わりに住ませる。コロサイ3:16。

- ③ 自分の罪により「神の聖霊を悲しませてはいけません」(聖霊なる神は、人格をお持ちの方)

エペソ5:30。

御聖霊が罪を示して下さったなら、悔いて、改める。素晴らしい御霊に満たされる事を邪魔する自分の罪を、神に告白し(Iヨハネ1:9)、赦しをいただき、御霊に拠り頼み、信頼できる人に祈ってもらい、その罪から離れる。そうすれば、聖霊は豊かに働いて下さる。私達に聖なる力が与えられる。

「聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。…そして…地の果てにまで、わたしの証人となります」使徒1:8。

「だれでも自分自身をきよめて、これらのこと(神の喜ばれない罪、悪、不義)を離れるなら、その人は尊^{たつと}いことに使われる器となります。すなわち、聖められたもの、主人にとって有益なもの、あらゆる良いわざに間に合うものとなるのです」Ⅱテモテ2:21

- ④ 素晴らしい御霊が宿っておられる教会(Iコリント3:16)、主の体である教会の礼拝に参加し、主を中心に互いに交わり、御霊の一致を保つ。

「教会は…いっさいのものによって満たす(:18と同じ原語)方の満ちておられるところです」

エペソ1:23